



Title	受講生に寄り添った大学漢文教育の実践：予習を課さずテストをしない授業
Author(s)	椛島, 雅弘
Citation	懐徳堂研究. 2022, 13, p. 51-73
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93503
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

受講生に寄り添った大学漢文教育の実践 ―― 予習を課さずテストをしない授業 ――

梶 島 雅 弘

序論

大学において、どのように漢文教育を行っていくべきか。この問題については、大学特有の自由度の高さがあるため、様々な角度から述べられる必要がある。筆者はこれまで、和歌山大学と大阪樟蔭女子大学にて、漢文に関する講義を四年間担当してきた。そこで、漢文を苦手とする学生や、漢文をどのように読めばよいか分からない学生が多いという問題を抱えた。

小論では、その二つの問題について、どのように対策を立てて実践したのかを報告し、今後の課題を述べることを目的とする。

一、先行研究と小論の目的

これまで、大学における漢文教育をテーマとした様々な論考・報告が発表されているが、その中でも、本報告と関わりの深いものを紹介しつつ、改めて筆者の問題意識を述べたい。

まず注目したいのが、湯城吉信「一般教育としての漢文演習―漢文教育の意義再考」(『新しい漢字漢文教育』第二十九号、一九九九年)である。湯城氏は、「漢文を読むコツ」として、「①イメージすること」「②リズム」「③文法」「④熟語」「⑤漢字」を挙げ、それぞれ解説している。漢文はどのような能力があれば読めるようになるのか、この問題については、大学に限らず、他の機関における教育でも重要である。

一般的な漢文教育において、特に重視されている事項は、句形・句法である。例えば「当」「未」「猶」等の再読文字を用いた句形、「不」「無」「非」等を用いた否定の句形、「何」「豈」等を用いた疑問・反語・詠嘆の句形は、おおよその教科書・参考書で重視されている。

このような中、湯城氏が文法以外にも漢文を読む「コツ」を提言したことは、大きな意義がある。しかし、漢文読解に必要な能力という重要な問題について、もう少し多様な観点からの提言があつてよいのではないだろうか。

筆者は、これまでの自身の経験から、漢文読解には「熟語力」「補足力」「背景知識」「文法知識」の四つが大切なのではないかと考える。これについては、次章以降で詳しく述べる。

次に注目したいのは、荒井礼「中・高における教育・教材を含む包括的な漢文教育の問題―大学における漢文教育の立場から―」(『千葉大学教育学部研究紀要』第十六巻第二号、二〇一八年)である。

荒井氏は、現在の中・高における漢文教育が「教訓的」という偏狭なイメージであることを問題とし、その中でサブカルチャー(漫画・アニメなど)が「難しいイメージのある古典や他国の文化を紹介したり、学生の興味を惹いたりするのにある程度有効な方法である」(二九頁)

として、具体的な取り入れ方法について述べている。

この提言は、必ずしも大学教育を想定している訳ではないが、充分大学における講義でも活かすことが可能である。また、筆者はサブカルチャーの有効性について、興味を惹く以上の効果があると考えている。具体的には、絵や映像として中国文化に触れることができれば、恐らく湯城氏が述べる「①イメージすること」、つまり漢文のストーリーを想像するのも容易になる。また、筆者が漢文読解において重要とする背景知識を視覚的に身につける手段にもなる。

また朱鳳「女子大学における漢文教育の実践と展望―京都ノートルダム女子大学を例として」(『言語文化研究』第五号、二〇一七年)にも注目したい。朱氏は、課題について学生同士に議論する時間を取っており、「九〇分の授業は、教員が一方的に講義するのではなく、学生も参加できるような内容で構成することを常に心がけている」(四〇頁)と述べる。

近年、アクティブラーニングという言葉が重視されているように、やはり大学の漢文教育においても、学生が主体的に学ぶ事ができる講義作りは重要となってくる。この問題については、筆者はグループワークを積極的に取り入れ、また読解に関する内容以外の質問を織り交ぜ、

できる限り学生が楽しんで学べるように進めた。

この「学生が楽しんで学べる」に関して、そもそも漢文に対し苦手意識を持っている学生は多いのではないだろうか。というのも、筆者が毎年、講義を担当する際、ガイダンスで「この講義では、特に漢文の読み方を勉強します」と伝えると、険しい顔つきになる学生や、不安そうにする学生が少なからず確認できた。

実際、学生との対話や感想において、「漢文読解に自信がない」「漢文には苦手意識がある」という声をよく聴く。そのような声のある中、どのような講義を行っていくべきか。その答えとして、先述のグループワークや読解に関する内容以外の質問を織り交ぜる他、「予習を課さない」「テストを行わない」などの対策を行った。この点についても、次章以降で詳しく述べる。

以上、先行研究を参照しつつ、筆者が課題としている「漢文読解に必要な能力」「漢文に対する苦手意識を持つ学生への対応」という二つの問題やそれらに対する施策について述べた。次章では、施策の詳細について述べる。

二、講義におけるコンセプトについて

筆者が担当した各講義（「中国文学」「漢文学概説」）は、

国語の教員免許を取得する予定の学生が履修することが多い。また先述の通り、二点の大きな問題意識・コンセプトを掲げて講義を計画・進行してきた。

① 漢文に対する苦手意識を払拭する

この問題を解決するため、試行錯誤しながら、以下のような施策を取るに至った。

1、予習を課さない

学生のレベルや、課題とする漢文のレベルにもよるが、訓点・送り仮名付きの漢文であっても、全訳するとなつた場合、負担に感じる学生は多く存在する。従って、予習を前提に進めてしまうと、元々漢文が苦手な学生は、脱落してしまう可能性が高い。

さらに、インターネットが身近となつて久しい現代で予習を課したとしても、よほどマニアックな出典でない限り、ネット上に書き下しや現代語訳が上がつており、それを写してしまう学生は一定数存在する。

仮に予習を課した場合、「細かく質疑を行えばすぐに分かるから、ネットを見て書き写すのは禁止」と注意すればよいが、より窮屈感が増し、苦手意識に繋がってしまう可能性がある。

以上の理由により、予習は課さず、基本的に講義の中のみで完結するようにした。

2、テストを行わない

助字の解釈や文法を絡めた現代語訳などを問う典型的なテストは、基礎的能力を身につけるといふ点では有効である。しかし、どうしても単なる記憶力テストになってしまう、苦手意識の改善とは相性は悪い。

テストを実施しない場合、どのように学生を評価するか。筆者は主にグループワークの参加と毎回の感想シートによって行っている。両者については6や次章にて詳しく紹介する。

3、読解プリントを作る

両講義を担当した一年目は、訓点・送り仮名付きの漢文の読解を進めていく形式であった。講義中に時間を取り、辞書を片手に書き下して現代語訳をするよう指示したのみでは、苦戦する学生が多かった。また、途中で諦めてしまう学生も多く確認できた。

従って二年目以降では、読解を補助するプリントを配り、それをこなしてから、読解に移るよう指示を行った。読解プリントは、主に解釈に関するヒント・解釈に関

する問題・その他派生問題の三つを掲載している。詳細は次章にて紹介する。

4、読解プリントに正解のない質問を混ぜる

漢文の内容は、教訓や感情など、現代にも通ずる普遍性を持つものが多い。それを味わい、自分の糧とするのは、漢文学習の大きな意義として挙げられるのではないだろうか。さらに、単に講義者の解釈を紹介するだけでなく、学生一人一人の考え方を自由に出す機会があったほうが、今後に活かしやすくなり、漢文に対する苦手意識も減るのではないか。^①そう考え、読解プリントに正解のない質問を混ぜた。特に詩の際は、このような質問を多く投げかけることにしている。

例えば、王維の「送別」を取り上げる際は、文法的・読解的な質問だけでなく、以下のような質問を行い、学生に答えてもらう。

Q2「酒」について。ここでは、友人などと別れる際に酒を酌み交わすという当時の習慣を読み取ることがができます。(現代日本でも送別会で酒を飲むことがあるので、似ている部分があります) これ以外の酒の役割について、思いつく限り答えてみましょう。

Q5…この作品の1つのテーマは「友人との別れ」ですが、皆さんが「別れ」と聴いて思い浮かぶ作品(曲・小説・漫画・映画…)は何ですか? 思いつく限り挙げてみましょう。

以上のような質問は、自由度の高さだけでなく、「漢文を身近な存在として認識する」ために有効でもある。やはり、国も言語も時代も違う人間の作品は、身近さを感じず、どこか遠くに感じるのが自然である。その遠さが、苦手意識のもとになっているのではないか。

従ってQ2やQ5のように、作品の普遍性をアピールし、学生自身に引きつけられるような質問をすれば、親近感を高め、苦手意識を払拭すると共に、作品の理解にも繋がると考える。

5、学生が講義中に発信する機会を作る

(グループワーク・チャット)

やはり、講義者から学生への一方通行の講義では、漢文(を含めた学習)に対し、ポジティブな印象を持ちにくいと思われる。

両講義では、対面の時は四、五人のグループを作り、読解プリントの解答・回答と課題文の書き下し・現代語

訳をそれぞれ発表してもらう。その後、最終的には講義者が正解や回答例をまとめたプリントを配り解説する。解説でも分からない所は、講義後に直接受け付けるか、毎回の小レポートで質問してもらい、答える形を取る。

一方、オンライン講義の場合は、チャット機能を用い、それぞれ全員に解答・回答してもらい、講義者がそれぞれ解説を行う形を取った。

6、進行速度は遅めに

これは特に1・5との関わりが深い。両講義は予習を課さず、「自分で読解プリントに答えた上で、課題文の書き下し・現代語訳を行う(30分程度で終わる分量)」↓「グループワーク(20〜30分)」↓「講義者の解説(20分程度)」という流れを取る。

また、7のように、漢文読解以外の時間を取ることもある。従って、両講義を通じて読むのは、それぞれ三つの漢文のみである。(詳しくは第三章を参照)

7、漫画や映画の紹介・解説

漢文を教える教材は、必ずしも漢文だけに限定する必要はないと考えている。後述する通り、漢文を読解するために、背景知識が必要になることがある。また単純

に、当時の中国の常識や価値観を知らないまま、字面だけ追っても、内容を深く読み込むことはできず、面白さを感じることができない。

当時の中国の常識や価値観は、講義者が伝えればよい話ではあるが、関係する漫画や映画を紹介すれば、視覚的に抵抗感なく伝えることができる⁽³⁾。

例えば、両講義では毎年、三回分の時間を使って「レックドクリフ パート1」を放映している。まず、予めストーリーや登場人物の解説を行う。また上映中、当時の価値観的に重要なシーンは、一時停止して解説する。

(例) 冒頭シーンの解説

・ 献帝のすだれのついた帽子について

↓これは「冕冠(べんかん)」と呼ばれる帽子であり、皇帝をはじめとする身分の高い人が被るもの。すだれの本数については、皇帝が12本(前後あわせて24本)となっている。

曹操の様子について

↓曹操が腰回りに付けている立派な佩玉(アクセサリ)の一種は、権力の強さや地位の高さを示す。

↓曹操は皇帝に謁見する際、帯剣したままで、さらに小

走りせずにゆっくり近づいている。帯剣不趨(たいけんふすう。「趨」は「はしる」の意)。この2つは、当時のマナーにおいては無礼にあたる行為であるが、曹操は特別に許されている。(次に登場する孔融は、帯剣せずに小走りで皇帝の前に現れており、対照的である。)それだけ権力が強大であることを示している。

また漫画については、中国を舞台とした歴史物をリストアップし、一覧にして紹介する。その際は、個人的な「読みやすさ」と「役に立つ度」と簡単な紹介文を添える。

漫画の紹介(一部)

・ 横山光輝『史記』(全11巻)(文庫版)

読みやすさ:★★★★☆ 役に立つ度:★★★★★

↓司馬遷『史記』の一部を漫画にしたもの。春秋戦国時代→秦代→楚漢戦争→前漢初期までの重要人物の生涯について、オムニバス形式で学ぶことができ、時代背景を知る上では非常に有用。また同時に、「屍に鞭打つ」「完壁」などの言葉の由来についても詳しく知ることができる。ただし、顔の判別が難しい。

・原泰久『キングダム』(未完)

読みやすさ：★★★★★ 役に立つ度：★★★★☆

↓戦国末期、下僕の李信が將軍にまで上り詰める物語。戦争が主なため、役に立つ度は高くないが、ストーリーに熱い展開が多く、またキャラクターにも魅力的な人物が多いため、非常に面白く読みやすい。アニメ化・実写映画化済みなので、そちらもあわせてどうぞ。

・杜康潤『梨花の下で』(全1巻)

読みやすさ：★★★★☆ 役に立つ度：★★★★★

↓中国で著名な詩人である李白と杜甫の生涯を描いた物語。作中では、李白・杜甫の作品が紹介されており、難しく敬遠しがちな漢詩について、気楽に触れることができる。また、中国における詩とは、どのような意味を持っていたのかを知ることができる点でも有用。中学・高校で漢詩を学んだが、「難しい」「つまらない」という印象しか残らなかった人は、これを読めば漢詩の魅力を発見できるかもしれない。

②漢文をどのように読めばよいのか理解する

前述の通り、湯城氏は、漢文を読むコツ(着眼点)として、「①イメージすること」「②リズム」「③文法」「④熟語」

「⑤漢字」の五つを挙げる^④。

一方筆者は、以下の四点を重視して講義を進めている。湯城氏と重複する部分が多いが、詳細では異なるため以下に記す。

1、熟語力

柔軟な漢字の運用は、漢文読解において重要である。特に、漢文中に現れる一語の意味を類推するにあたり、我々が普段用いている熟語の知識が役立てられる。

例えば、「古之所謂莫三人而迷者、一人失之、二人得之、三人足以為衆矣。(古の所謂三人にして迷う莫しとは、一人之を失すとも、二人之を得たり。三人ならば以て衆しと為すに足る。)」(『韓非子』内儲説上)を読解する場合、「失(と得)」と「衆」の解釈がポイントとなる。

「失」については、現代日本語の感覚で読むと、「(何かを)失う」「(何かを)得る」と解釈しやすいが、文脈的に合わない。そのような際、「失」あやまる^⑤は、「失言(過ったことば)」「失政(過った政治)」「得失(成功と失敗)」から導き出すことができる。あるいは、「過失(共に「あやまる」という意味)」が連文であることを知っていれば、そこからも「失」に「あやまる」という意味があることが分かる。

「衆」については、現代日本語では一語で用いることは少なく、読みづらい。しかし、現代でよく用いられる「衆寡（多いか少ないか）」「衆目（多くの人の目）」から、「衆〓おおし」は、導き出すことができる。

当然の話だが、漢字には複数の意味がある場合が多く、細かく分ければ十以上存在することも珍しくない。一方熟語になると、意味が安定しているため、漢字の意味を掴むのは容易である。その熟語がどのような構成なのか見極めることができれば、熟語を漢文読解に活かすことは可能である。

熟語の構成は、以下のパターンについて解説した。

名詞＋名詞のパターン

- ①両者が並列もしくは選択の関係にあるもの（例…父母／父 and 母、父 or 母）
- ②両者が同義であるもの＝連文（例…災禍／災+禍）
- ③両者が従属関係にあるもの（例…城門／城の門）
- ④両者が反対の意味を示すもの（例…左右 上下）

名詞＋動詞のパターン

- ⑤主語＋述語となるもの（例…日没／日が没する）
- ⑥名詞が副詞的な修飾語となり、状態・材料・手段・場

所などを示すもの（例…氷解／氷のように解ける）

動詞＋動詞のパターン

- ⑦両者が時間的に継続関係にあるもの（例…撃破／撃つて破る 教育／教えて育てる）
- ⑧両者が並列や選択の関係にあるもの（例…殺傷／殺す or 傷つける）
- ⑨両者が同義であるもの＝連文（例…傷害／傷う+害う）
- ⑩両者が対立関係にあるもの（例…取捨・進退）
- ⑪動詞を副詞的に修飾するもの（例…立飲／立ちながら飲む）

動詞＋名詞のパターン

- ⑫名詞が動詞の補語として機能するもの（例…読書／書を読む）
- ⑬動詞が名詞の形容詞的修飾語となるもの（例…流水／流れる水）

副詞 or 形容動詞＋動詞のパターン

- ⑭副詞 or 形容動詞が動詞を修飾するもの（例…晩成／晩く成る）

形容詞が入っているパターン

⑮ 形容詞と名詞が結合し、形容詞が名詞を修飾するもの
(例…大国／大きな国)

⑯ 副詞〇形容動詞と形容詞が結合し、副詞が形容詞を修飾するもの (例…最高／最も高い)

⑰ 形容詞同士が同義であるもの〓連文 (例…曖昧／曖昧＋味い)

⑱ 形容詞同士が反対の意味を示すもの (例…貧富／貧しいか富んでいるか)

やや特殊パターン

⑲ 否定(不・未・非…)・有無の接頭辞が来るもの (例…不安／安んじない 有害／害が有る)

⑳ 「然」「如」等の接尾辞が付いているもの (例…突如)

㉑ 二字重ねるパターン (例…堂々)

特殊パターン

㉒ 外来語を漢字表記する際、字義を無視して音によって固有名詞となったもの〓仮借 (例…蒙古→モンゴル語、旦那・奈落→サンスクリット語)

㉓ 故事から生まれたもの (例…矛盾・逆鱗・折檻)

第二章で述べる通り、両講義において、それぞれ一回分の時間を取り、熟語について解説した。まず、前述のパターンを軽く解説した後、分類する練習問題を解いてもらい、熟語を漢文読解に活かす足がかりとした。⁶⁾

なお、漢文読解に熟語を活用することの利点として、「日本語の誤用が減る」「日本語に関する感性が豊かになる」という点が挙げられる。

現代日本人は、熟語について一語ずつの意味を考えず、機械的に覚えた上で用いることが多い。だからこそ、「元旦の朝(旦)は「朝」の意味」や「すべて一任する(一)は「すべて」の意味」のような誤った日本語を用いてしまう。

しかし、熟語の構造を把握できれば、このような誤用の心配はなく、日本語の感性向上に繋げることも可能である。

2、補足力

漢文の特徴として、主語や目的語などを省略するといふものがある。この背後には、漢文〓端的であることを尊ぶ価値観が存在している。漢文を読解する場合、これは非常に厄介であり、一つ一つ補足しながら解釈する必要がある。

(例)『韓非子』内儲説上

晏子魯を聘う。哀公問いて曰く、「語に曰く、三人にして迷う莫しと。今寡人一国と之を慮れども、魯乱を免れざるは、何ぞや。」と。晏子曰く、「古の所謂三人にして迷う莫しとは、一人之を失すとも、二人之を得たり。三人ならば以て衆しと為すに足る。故に曰く、三人にして迷う莫し。」と。今魯国の群臣千百を以て数うるも、季氏の私に一言す。人数衆からざるに非ざるも、言う所の者一人のみなり。安ぞ三たるを得んや。」と。⁷²

傍線部の「言う所の者一人のみ」について、「誰に」「何を」言う者が一人なのか分からなければ、話の顛末を理解することが難しいため、重要である。⁷³

従って、読む漢文によつては、補足すべき箇所は補足して読むことが必須となる。そのためには、常に話の流れを読み、文脈を把握しながら読む必要がある。

『両講義』においては、読解プリントの問題として取り上げ、補足力を上げるためのトレーニングとしている。

3、背景知識

当時の常識や価値観⇨背景知識を知っていれば、読解

がしやすいことがある。

(例)『世説新語』言語篇

南郡の龐士元 司馬德操の潁川に在るを聴き、故に二千里之を候す。至れば、德操の桑を采るに遇い、士元車中より謂いて曰く、「吾聞く丈夫世に処するに、当に金を帯び紫を佩ぶべし。焉ぞ洪流の量を屈して、糸婦の事を執ること有らんや。」と。德操曰く、「子且く車より下りよ。子は適だ邪径の速きを知るのみにして、道を失うの迷いを慮らず。昔伯成は耦耕し、諸侯の榮を慕わず、原憲は桑柘にあり、有官の宅を易えず。何ぞ坐するに則ち華屋、行くに則ち肥馬、侍女數十なること有りて、然る後に奇と為さんや。此れ乃ち許父の慷慨する所以、夷・齊の長歎する所以なり。窃秦の爵、千駟の富有ると雖も、貴ぶに足らざるなり。」と。士元曰く、「僕生まれて辺垂に出で、大義を見ること寡し。若し一たび洪鍾を叩き、雷鼓を伐たざれば、則ち其の音響を識らざるなり。」と。⁷⁴

この漢文において重要なのは、司馬德操(徽)の考え方である。德操は、いわゆる隠者の思想に基づいて発言し

ており、これが把握できていないと、たとえ文法事項を完璧に抑えていたとしても、「邪径」「道」「大義」の正確な意味が分からず、ひいては話自体を殆ど理解できない。

隠者とは、「世の中から隠れる者」の意味であり、自分の理想や信念を貫くため政治から離れる人物や、あるいは最初から仕官を求めず、山などの自然に隠れ住む人物をさす。隠者にとって大切なことは清廉さであり、安易に地位・名誉・金銭を尊ぶべきではないと考える。

この考え方は、道家思想と密接な関わりを持ち、共に漢文の担い手であった士大夫層へ多大な影響を与え続けた。従って、この隠者の思想がベースとなった漢文は多く存在し、問題として登場することも少なくない。

以上、隠者の思想を例に挙げ、背景知識の重要性を説いたが、儒教や諡号など、他にも知っておくと役立つものは多く存在する。

また、先に紹介した映画や漫画は、苦手意識の改善だけでなく、読解に役立つ背景知識を得られる場合もある。さらに、先述の通り、湯城氏が述べるところの「イメージ」を掴むための有効な足がかりにもなる。

4、文法知識

文法知識に関しては、他の関連書籍などで言及してい

るため、今更その重要性を説く必要はないが、伝え方は工夫し、できる限り学生が負担なく知識として定着できるようにしている。

例えば、反語を伝える際には、まず以下のような質問を投げかけて考えてもらった上で、自身の答えを提示する。

漢文読解においては、「何ぞや」や「安んぞや」といい、疑問や反語を表す部分が注目され、問題になることが非常に多いですが、それは何故だと思いませんか？ 思いつく限り理由を挙げてみましょう。

↓疑問に対する解答⇨主張⇨文章の核であり、疑問と文章の核とは非常に近い関係にあるから。

↓反語⇨強い主張・批判なので、文章の核そのものとなる場合が多い。なお反語は、漢文特有の表現だと思われるが、現代日本語でもしばしば用いている。

(例) テスト期間中に、自室でゲームなどを行って遊んでいる時に、母親が部屋に来て、「どうして勉強していないの？」と述べた。

↓これは、自分が勉強しない理由を知りたい⇨疑問というよりは、テスト期間中にも関わらず遊んでいる自分

への批判＝反語のニュアンスが強い。

ここでは、漢文の問題について根本的な疑問を投げかけると共に、疑問と反語の役割の違いを解説している。さらに、漢文特有の表現だと思いがちな「反語」について、現代日本語におけるありがちな用例を挙げることにより、親近感を持たせ、定着を図っている。

以上、筆者が漢文教育の実践において、重要視している事柄をまとめた。基本的には、漢文自体が得意ではない、もしくは漢文に対し良い印象を持っていない学生を想定しているが、漢文が得意で既に良い印象を持っている学生や、教員免許を取得し漢文を教える予定の学生も、将来活用できる部分があるのではないかと考える。

三、実践の詳細

ここでは、実践の詳細についてまとめて報告する。

シラバス 各回タイトル

第1回…ガイダンス

第2回…『韓非子』『晏子魯を聘う』読解①―背景知識・

グループワーク

第3回…『韓非子』『晏子魯を聘う』読解②―前半部分の読解プリント・グループワーク

第4回…『韓非子』『晏子魯を聘う』読解③―前半部分の現代語訳・グループワーク

第5回…『韓非子』『晏子魯を聘う』読解④―後半部分の読解プリント・グループワーク

第6回…『韓非子』『晏子魯を聘う』読解⑤―後半部分の現代語訳・グループワーク

第7回…熟語について

第8回…『後漢書』『沛郡の周郁の妻』読解①―前半部分の読解プリント・グループワーク

第9回…『後漢書』『沛郡の周郁の妻』読解②―前半部分の現代語訳・グループワーク

第10回…『後漢書』『沛郡の周郁の妻』読解③―後半部分の読解プリント・グループワーク

第11回…『後漢書』『沛郡の周郁の妻』読解④―後半部分の現代語訳・グループワーク

第12回…漢文読解に必要な背景知識を知る―映画「レッズドクリフ」鑑賞①

第13回…漢文読解に必要な背景知識を知る―映画「レッズドクリフ」鑑賞②

第14回…漢文読解に必要な背景知識を知る―映画「レッズ

ドクリフ」鑑賞③

第15回…王維「竹里館」読解・グループワーク・全体まとめ

達成目標

- ・ 漢文をどのように読めばよいのか理解する
- ・ 漢文の魅力や意義を理解する
- ・ 漢文を教える方法について、自分なりに考えることができる（教職志望者のみ）

実践において使用する教材

- ・ 課題文のプリント
- ↓ 返り点・送り仮名付きの漢文を題材とし、書き下し・現代語訳を行う。

・ 読解プリント

- ↓ 課題文の読解を補助するためのプリント。内容に応じてヒントや問題を出している。

・ 記録シート

- ↓ 毎回、講義の終わりに学生が学んだ事や感想、質問をまとめて提出する。提出されたものは、講義者が確認・コメント・評価し返却する。

（例）第5回・第15回の記録シート

漢文学概説第5回 「晏子曰く」～「安んぞ三たるを得ん」と

（後半部分） 読解プリント

※行数はご自身で調整して下さい。

ヒント…3行目「之を失う」について。まず「之」は、前半部分に登場したものと同じ働きであるため訳す必要はありません。また「失」は、「何かを」失う」という意味ではなく、「誤る・間違う」という意味です。そして「之を得るなり」の「得る」は、「これと反対の意味となります」。

Q1…「失」を「誤る・間違う」という意味で用いている熟語を思いつく限り挙げましょう。思いつかない場合は、辞書で調べて挙げましょう。

Q2…3行目「衆（おお）し」について「衆」を含む熟語を思いつく限り挙げましょう。思いつかない場合は、辞書で調べて挙げましょう。

ヒント…4行目「千百」について、これは「1100」という具体的な数字ではなく概数（おおよその数、ここでは「何千百」といふ「沢山」「全て」という意味）です。Q3…現代で用いる四字熟語や表現で「沢山」「全て」の意味で数字が用いられているものを探して、挙げてみて下さい。（例…百発百中、一日千秋）

ヒント・4行目「私」は、「自分一人の考え」「わがまま」という意味です。また注にある通り、季氏は魯(袁公)に仕える重臣です。
Q4「私」の反対語は何でしょうか？また、「私」を含む熟語のうち、マイナスのニュアンスを持つ場合があるものをできる限り挙げましょう。思いつかない場合は、辞書で調べて挙げましょう。

ヒント「言う所の者」の「所」は、場所の意味ではなく、後文にある動詞・形容詞などに名詞化させるために用いる役割であり、さらに動詞の対象物人を示します。訳す際は「もの」・「人」と訳します。
なぜ「所」が必要か？「言」のみだと「言葉(名詞)なのか(言う)(動詞)なのか分からないから、「所」(+「者」)を加え、下の漢字は動詞でかつ、この部分は「もの」「人」という名詞として読むべき」という指示を与えている。従って「言う所の者」は「言う人」と訳します。

Q5「言う」とは誰に何を言うのでしょうか？文脈から推測してみましょう。

ヒント・5行目「安んぞ三たるを得んや」の「安んぞくや」は、疑問の意味か反語(さ)だろうか、いやくない。役割としては強い断定・主張の意味です。どちらで解釈するべきか、文脈を手がかりに選びましょう。

Q6「漢文読解においては、「何ぞや」や「安んぞくや」とい、疑問や反語を表す部分が目され、問題となることが非常に多いですが、それは何故だと思いませんか？思いつく限り理由を挙げてみましょう。

漢文学概説 第15回 王維 きらい 竹里館 ちりかん

独坐幽篁裏 独り坐す 幽篁の裏 ゆうとう

弹琴復长嘯 琴を弾き 復た長嘯す ちようしやう

深林人不知 深林 人知らず

明月来相照 明月 来たりて相照らす

(五言絶句)

注釈

王維：唐代の詩人・画家・書家・音楽家・官僚。自然を描写した詩を得意とした。

竹里館：王維が持っていた別荘の一つ。

篁：竹林のこと。

長嘯：声を長くひいて詩歌をうたうこと。

作品を読解するための視点

Q1「幽」とはどのような意味でしょうか？また、「幽」を含む熟語のうち、その意味で用いられているものを調べて挙げましょう。

Q2「裏」はどのような意味でしょうか？また、「裏」を含む熟語のうち、その意味で用いられているものを調べて挙げましょう。

Q3「深林人不知」を現代語訳しましょう。

作品を味わうための視点

Q1…「独坐」について、王維は静かで誰もいない竹林（のある別荘）にて、一人で過ごし、あなただけで静かさを喧騒を離れ、一人で居たいと思うことはありますか？ある場合、それはどのような時ですか？

Q2…この詩から察するに、王維は①一人の時間が必要なタイプ②誰かと一緒に居ると疲れる③孤独を楽しむ④ですが、一方で⑤できる限り人と一緒に過ごしたいタイプ⑥一人だと寂しい⑦もいます。あなたはどちらのタイプですか？

Q3…①のタイプの人は、どのような性質・性格の人だと思いますか？

Q4…詩の中では、王維が一人くつろげる場所で、好きなこと（①琴を弾いたり詩を作ったりすること）を思うままに行っていますが、あなたがリラックスしたい際には、どのようにしますか？

Q5…「明月」について、漢詩において月はいさしは「孤独な夜の唯一の友」という存在として扱われます。現代における「孤独を癒やす存在」としては、何が挙げられるでしょうか？

2

各実践校の情報・実施形式

和歌山大学

・対面。対象学年は1～4年生。教職専門科目であり、受講生の大半が教育免許を取る予定で受講する。漢文を専攻している受講生はいない。

・17名（2021年度）。少人数でのグループワーク有り。
・「自分で読解プリントに答えた上で、課題文の書き下し・現代語訳を行う（30分程度で終わる分量）」→「グループワーク（20～30分）」→「講義者の解説（20分程度）」→「記録シートの記入・提出（10分）」という流れを取る。（第7・12・13・14回は除く。）

大阪樟蔭女子大学

・オンライン。対象学年は1～4年生だが、受講生の大半は3年生で国文学科の学生であり、漢文は専門ではない。教職専門科目であり、受講生の半数程度が教育免許を取る予定で受講する。

・20名（2021年度）。チャット形式で解答・回答を発信。

・「自分で読解プリントに答えた上で、課題文の書き下し・現代語訳を行う（30分程度で終わる分量）」→「チャット

ト機能を使い、読解プリント↓課題文の書き下し・現代語訳の順番で学生の解答・回答を確認し解説する。(50分)↓「記録シートの記入・提出(10分)」という流れを取る。(第7・12・13・14回は除く。)

評価方法

・毎回の小レポート(70%)とグループワークのチャット学習の態度(30%)。

四、実践校におけるアンケート結果

2021年度の両大学における受講生は、合計37名であった。その学生に対し、第1回と第15回に、以下のようなアンケートを実施した。結果と併せて記載する。

(第1回実施分)

Q1…国語(中学・高校)の教員免許を取る予定ですか? 取る・取らない

↓取る 26名 ↓取らない 11名。

Q2…漢文に対し、どのような印象を持ちますか?

好き・どちらでもない・嫌い

好き 15人 どちらでもない 18人 嫌い 4人

Q3…理由を教えてください。

↓「好き」は、「(難しいけど)話が面白いから勉強になるから」が多い。また、「書き下しがパズルみたいで面白い」という意見も複数確認できた。

↓「どちらでもない」は、「難しいけど話は面白いから」という意見が最も多かった。

↓「嫌い」は、「難しいから」という意見が目立った。

Q4…漢文は得意・不得意?どちらでもない?

得意 3人 どちらでもない 22人 不得意 12人

Q5…高校で漢文は学びました? 学んだ・学んでいない・分からない(記憶がない)

学んだ 33人 学んでいない 4人 分からない 0人

Q6…(学んだと答えた方へ)どのように学びましたか? 「文法事項の解説・暗記」が多い。「背景知識」という意見もいくつか存在。

Q7…どのような能力を磨けば漢文を読めるようになる
と思いますか？

文法↓18票 語彙・単語↓8票 漢字↓6票 返
り点○、書き下し↓4票 その他↓想像力・漢文を楽
しみ味わう能力など

(第15回実施分)

Q1…漢文に対し、どのような印象を持ちますか？ 好

き・どちらでもない・嫌い

好き↓20人 どちらでもない↓16人 嫌い↓1人

Q2…講義前と後で、漢文への印象に変化がありました
か？あった場合は、どのように変わったのか教え
てください。

・講義前は、難しく堅苦しいイメージを強く持っていま
した。しかし、文法にこだわらず、その背景知識や当
時の生活の様子を読み解くことで、作品に対して感情
移入でき、楽しく読めました。

・苦手意識があったけれど、授業を経て面白さが分か
りました。もっと早く気づけたら…。

・難しくわけがわからないと思っていましたが、漢文を
身近に感じられました。

・変化はあった。講義前は、漢文は読解するだけのもの
で、難しく、面白くない印象が強かったのですが、講
義後は、漢文内に隠されている、登場人物等の背景を
知ること、その時代風景などを知ることができ、面
白いと感じる事ができた。

・思っていたより解説がわかりやすく、苦手意識は薄れ
ました。

・講義前は、ただ「訳す」、「内容理解」という堅いイメ
ジがありましたが、講義を受けて、背景知識を知った
り、作者の心情を理解することから、内容について面
白いと感じたり共感できる部分が多くなりました。

(以下省略)

Q3…教材の漢文について、興味を持てる内容でしたか？
持てた↓31人 それなりに持てた↓6人 持てな
かった↓0人

Q4…講義前と現在で、漢文を読めるようになった実感
はありますか？

とてもある↓2人 ある↓26人 どちらでもない
↓7人 あまりない↓2人 全くない↓0人

Q5・・講義で重視した「背景知識」「熟語力」「補足力」について、それぞれどれくらい漢文読解に有効だと思われましたか？

背景知識

とても思う↓30人 それなりに思う↓7人 どちらでもない↓0人 あまり思わなかった↓0人 思わなかった↓0人

熟語力

とても思う↓18人 それなりに思う↓17人 どちらでもない↓0人 あまり思わなかった↓2人 思わなかった↓0人

補足力

とても思う↓33人 それなりに思う↓3人 どちらでもない↓0人 あまり思わなかった↓1人 思わなかった↓0人

Q6・・仮に内容を選べるのであれば、どのようなものが良いですか？次のキーワードから選んで下さい。

(無制限)

教訓↓14票 道徳↓11票 家族↓12票 友情↓15票
恋愛↓15票 小説↓8票 怪異↓16票 季節↓6票 自然↓7票 政治↓4票 戦争↓13票

Q7・・教材の読解プリントについて、漢文読解の助けになりましたか？

なった↓37人 どちらでもない↓0人 なっていない↓0人

Q8・・(なっていない場合)どのようなサポートがあれば良かったと思いますか？

(回答無し)

Q9・・講義スピードはどうでしたか？ 遅い・程良い・速い

遅い↓1人 程良い↓36人 速い↓0人

Q10・・講義者の話し方や講義の進め方はどうでしたか？
・「丁寧」「分かりやすかった」という意見が多かった。
また、「グループワークと解説の配分がちょうど良かったと思います」や、「解くのが遅くても、時間を延ばしてくれたりして、助かりました」という意見も複

数存在していた。

・一方、「パワーポイントも活用してもよいのでは」という意見も寄せられた。

Q 11…本講義で最も印象に残ったものはどれですか？(何

でもいいです)

「晏子魯を聘う」↓2票 「沛郡の周郁の妻」↓11票

レッドクリフ(映画)↓16票 王維「竹里館」↓1票

その他↓4票

五、アンケート結果の分析と今後の課題

ここでは、アンケート結果について、様々な角度から分析した上で、今後の課題を示したい。

二つのコンセプトの達成度について

①漢文に対する苦手意識を払拭する」については、漢文を好きな人数が、第1回と第15回とで15人から20人に増加し、嫌いな人数が4人から1人へ減少した。また、第15回のQ 2では、「面白さが分かった」「苦手意識が薄れた」という意見が存在している。従って、①について一定の成果は得られたことが分かる。

また、①を達成するための具体的方策として、1「予習を課さない」2「テストを行わない」3「読解プリントを作る」4「読解プリントに正解のない質問を混ぜる」5「学生が講義中に発信する機会を作る(グループワーク・チャット)」6「進行速度は遅めに」7「漫画や映画の紹介・解説」の七項目を掲げたが、第15回のQ 7・Q 9・Q 10・Q 11の結果から、少なくとも3・5・6・7の効果は確認できた。

②漢文をどのように読めばよいのか理解する」については、第15回のQ 4によれば、28人が漢文を読めるようになった実感を持てたことが分かるので、一定の成果は得られた。

また、②を達成するために大切な「背景知識」「熟語力」「補足力」についても、第15回分のQ 5で分かる通り、大半の受講生に重要性を伝えられたではないか。

ただし、熟語力の大切さについては、「とても思う」が18人に対し、「それなりに思う」が17人であり、他二つと比べ低かったため、伝え方を改善する必要性がある。

題材の選定に関する分析

第15回分のQ 11について、「沛郡の周郁の妻」と「レッドクリフ(映画)」に多く票が集まっていた。

「沛郡の周郁の妻」は、『後漢書』列女伝の一節であり、義父の指示に対し深く考えた結果、自ら命を絶つてしまうという内容である。この話では、当時の親子関係や夫婦関係を学ぶことができる。「当時の時代背景に気を付けて、漢文は読まなければと実感する一作でした。」「今とは違う親子関係や夫婦関係の価値観に驚かされました」などの感想が確認できる。

これに関連して、第15回分のQ6では、「沛郡の周郁の妻」に関係する「道徳（11票）」「家族（12票）」が票を比較的得ている。

また、「レッドクリフ（映画）」は、赤壁の戦いをベースとしたものとなっているが、途中で教訓のような内容が語られたり、愛情や友情が一つのテーマとして描写されている。

「映像なので一番記憶にも印象にも残りやすかったです」今まで、三国志など中国の歴史に関するドラマや映画、漫画などを見たことがなかったのですが、『レッドクリフ』を見たことで、背景知識についてなどイメージがわきやすいと感じました。」という感想が得られた。そして、Q6では「教訓（14票）」「友情（15票）」「恋愛（15票）」「戦争（14票）」という内容が人気であることが分かる。

以上より、「沛郡の周郁の妻」「レッドクリフ（映画）」が印象に残りやすいのは、「映像である」だけでなく、受講生の興味を引きやすい内容であったからという要因も存在していたことが予想される。

また、「怪異（16票）」が最も票を集めている点も注目される。これには、「鬼滅の刃」や「呪術廻戦」など、怪異や呪術が関係する作品が流行していることが影響していると考ええる。

一方で、「季節（6票）」「自然（7票）」「政治（4票）」の人気の低さは、注目に値する。

「晏子魯を聘う」をはじめとして、漢文には政治に関係する内容が多く存在する。これは、漢文の担い手の大半が政治に携わっていた以上、避けようがないことではある。しかし、今回のアンケートを見る限り、漢文の苦手意識を和らげようとする際、政治をテーマとした内容を選ぶことは、あまり適切ではないことが分かる。選ぶにしても、現代の若い世代にも分かるような教訓が確認できるものでなければ、受講生の興味を引くことは難しいと考える。

また、漢詩ではよく季節や自然が描写されることが多いが、これも比較的興味を引きづらいテーマであることが分かる。漢詩を取り上げるのなら、季節や自然より、

恋愛や友情をテーマとした作品を取り上げると、受講生の抵抗感も和らぐ可能性が考えられる。

課題1…熟語力の大切さの伝え方

熟語力の重要性があまり伝わらなかった原因としては、第7回での説明によって、逆に混乱させてしまった可能性が考えられる。第7回では、熟語を23種類に分けて解説したが、数の多さに困惑し、苦戦している学生が多く確認できた。従って、品詞や例外を除き、より簡略な分類を紹介するべきだと考えた。具体的には、左の5種類を想定している。

- ①「A＝B」型（例…愛好・絵画・娯楽・柔軟・比較）
- ②「A⇄B」型（例…上下・貧富・増減・呼吸・進退）
- ③「AであるB」型（例…黑板・熟語・死体・激流・屋内）
- ④「AがBする」型（例…頭痛・雷鳴・地震・年長・骨折）
- ⑤「BをAする」型（例…読書・握手・登校・閉店・求人）

また、これまで意図していなかったが、今後は漢文読解に役立つ熟語を率先して紹介すべきだと感じた。例えば、「黑板（黒き板）」「読書（書を読む）」「頭痛（頭痛し）」よりは、「自白（自ら白す）」「徐行（徐^{おもたう}に行く）」「直後

（直^すぐ後）」のような熟語は、漢文を読んでいくために構成や意味を知っておいたほうがよい。「白す」「徐」「直ぐ」は、いずれも漢文読解の際、役立てられる。

次学期では、この「熟語の種類を少なくして解説する」「重要語に関連する熟語を伝える」という二つの方策を実施したい。

課題2…受講生の興味に合った題材の選定

今回は、さほど題材を吟味せずに選んでいたが、今回のアンケート結果を受け、「晏子魯を聘う」より怪異系の話を盛り込むべきだと判断した。

具体的には、『搜神記』『幽明録』『聊齋志異』といった作品から、程良い分量で、現代でも面白さが読み取れる内容を取り上げる予定である¹⁰。

課題3…中高現場における実践を想定した題材選び

受講生の興味関心に合わせることは重要だが、教育者を養成するという観点からは、「指定された題材をいかに授業で扱うか」も重要となる。

従って、「蛇足」「春望」「鴻門の会」といった教科書定番の内容も一つ取り上げ、いかに授業を進めていくのか考える機会を作るのも有効だと考える。

結語

漢文は、日本語や日本文化を知る上で避けては通れない程の影響力がある。一方で、しばしば漢文廃止論が唱えられる。このような状況を打破するためには、漢文を分かりやすく読解するポイントを伝えるべきではないだろうか。また、時に映画や漫画を活用し、漢文の面白さを伝える努力を絶やさないべきではないだろうか。

小論では、大学における漢文教育について、報告を行った上で今後の展望を述べた。講義において強く意識した「①漢文に対する苦手意識を払拭する」「②漢文をどのように読めばよいのか理解する」というコンセプトについては、1「予習を課さない」2「テストを行わない」3「読解プリントを作る」4「読解プリントに正解のない質問を混ぜる」5「学生が講義中に発信する機会を作る(グループワーク・チャット)」6「進行速度は遅めに」7「漫画や映画の紹介・解説」や、「文法知識」+「背景知識」「熟語力」「補足力」という具体的な対策を立てた後に実施した。

第1回と第15回のアンケートを見る限り、一定の成果はあげられたものの、受講生数が37人と少ないため、さ

らなるヒアリングと分析が必要である。

また、数が少ないながらも、熟語力の伝え方や題材の選定について、改善していく余地を発見することができた。今後も、筆者なりに漢文の魅力や読解方法を伝えていきたい。

注

(1) これに関連して、荒井氏も「文学には様々な解釈があつて良いはずである。しかし、初めから「こう読まなければならぬ」という意識を持つてしまうと、自由な発想、自分で考える力、漢文を純粹にお話として楽しむことを阻害することにつながるかねない。」(二十五頁)と論じる。

(2) なお、各講義の後期では、漢文の読解は行っていない。現代語訳を用い、このような問題のみを質問し、漢文を味わうことに重きを置いた講義にしている。

(3) 映画や漫画など、いわゆるサブカルチャーの活用については、前掲荒井氏の論文でも言及されている。

(4) 前掲「一般教育としての漢文演習―漢文教育の意義再考―」

(5) 連文とは、「連なる文字」の意で、同じ意味の漢字が連なった熟語の一種である。例えば、「憎悪(共に「にくむ」の意)」や「開発(共に「ひらく」の意)」である。仮に漢文で動詞として「悪」が登場した場合、「憎悪」が連文だと知ってい

れば、辞書を用いなくとも「悪む」と読むことができる。また「発」を「発く」と読むことができる。「憎悪」「開発」の他、我々が普段使用している熟語の中で、連文構造であるものは多く存在する。

(6) なお、熟語については、そもそも品詞自体を断定することが難しい(例:「障害」は「損う＋害う」(動詞＋動詞)は、「損なう」と「害(そこな)う」と(名詞＋名詞)と捉えることも可能)ので、この分類はあくまで目安である。

(7) 晏子聘魯。哀公問曰、「語曰、莫三人而迷。今寡人與一國慮之、魯不免於乱何也。」晏子曰、「古之所謂莫三人而迷者、一人失之、二人得之、三人足以為衆矣。故曰莫三人而迷。今魯國之群臣以千百數、一言於季氏之私、人數非不衆、所言者一人也。安得三哉。」

(8) なお、この省略の傾向は、「処女(意味としては「処家女(家に処る女)」と表記すべき)」をはじめとして、熟語自体にも見られる。

(9) 南郡龐士元聞司馬德操在潁川、故二千里候之。至、遇德操采桑、士元從車中謂曰、「吾聞丈夫処世、當帶金佩紫、焉有屈洪流之量、而執糸婦之事。」德操曰、「子且下車、子適知邪徑之速、不慮失道之迷。昔伯成耦耕、不慕諸侯之榮。原憲桑柘、不易有官之宅。何有坐則華屋、行則肥馬、侍女數十、然後為奇。此乃許、父所以慷慨、夷・齊所以長歎。雖有窃秦之爵、

千駟之富、不足貴也。」士元曰、「僕生出辺垂、寡見大義。若不一叩洪鍾、伐雷鼓、則不識其音響也。」

(10) これに関連して、湯城氏も怪異系の題材の適切さを様々な角度から述べている。